

平成22年度市民センター職員等研修会開催要項

- 目的 市民センター職員等を対象に、事例発表等を通じて、市民センターにおける様々な課題について考えるとともに職員の資質の向上を図る。
- 対象者 市民センター職員、市民センター館長、まちづくり推進課職員、社会教育主事、社会教育主事補、生涯学習推進コーディネーター等
- 日時 平成23年2月9日（水） 10：00～15：20
- 場所 戸畑市民会館（ウェルとばた） 大ホール（戸畑区汐井町1-6）
- 日程
 - 9：30～ 受付
 - 10：00～10：20 開会行事
 - 10：20～12：00 講演
 - ・講演者 福岡教育大学准教授 生田淳一
 - ・演題 トラブル解決のためのコミュニケーション
 - 12：00～13：00 昼食休憩
 - ・休憩所 31・32会議室
 - 13：00～15：10 活動事例発表（4事例）
 - 1 みんなで創る「子ども納涼夏まつり」
～地域と学校との連携による参加型イベントの開催～
桜丘市民センター
 - 2 子育て仲間の輪を広げて、みんなで楽しく子育てしましょう！
企救丘市民センター
 - 3 そばづくり体験塾？
修多羅市民センター
 - 4 ボランティアで元気！！
～地域のつながりを大切に～
則松市民センター
 - 15：10～15：20 講評
 - 15：20 閉会

平成22年度 活動事例発表概要

| | |
|--|---|
| 小倉北区 | 桜丘市民センター |
| 発表者氏名 (職員・コーディネーター) | 職員 伊藤尚子 コーディネーター 川嶋洋子 |
| 活動報告題目 (報告事業名) | みんなで創る「子ども納涼夏まつり」 ～地域と学校との連携による参加型イベントの開催～ |
| <p>【活動報告概要】</p> <p>1 事業の目的・ねらい</p> <p>これまでの校区の子どもたち（小・中学生）を対象としたイベントは、大人たちが用意したプログラムに、子どもたちが「お客様」として参加していたものが多く、決して子どもたちが自発的に参加した事業とは言えなかった。</p> <p>そこで、子どもたちが自ら考え、大人たちと一緒に祭りの主催者の一員として参加し共に楽しむ「参加型イベント」として祭りを開催し、校区の小・中学校と連携をとりながら、地域・学校・参加者がお互いに交流を深めることを目的とした。</p> <p>2 事業概要（詳細は別紙資料参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小・中学校と連携して、子どもたちが主体となって出店する「子ども屋台」を新設。 ●従来のプログラムをアトラクションショー（アースマン）、教頭先生の「こわいはなし」、子どもステージ、マジックショー 等 子どもが楽しむ内容へ変更 ●校区内のお店から500円協賛商品の募集とじゃんけん大会の実施 ●のぼりの作成による演出 ●近隣の施設・企業の協力による駐車場の確保 <p>3 成果</p> <p>学校、校区のみならず、普段まちづくり団体とは関係の薄い個人商店や企業と連携し、みんなで一つの事業をおこなうという一体感が生まれた。</p> <p>4 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●桜丘校区だけの事業にとどまらず、いかに近隣の校区と連携して実施していくか。 ●平成23年度はセンター大規模改修工事を予定していることから、それによる事業中断の影響を抑えて、いかに継続性を持たしていくか。 <p style="text-align: right;">等が今後の課題である。</p> | |

主 な 事 業 概 要

1 子ども屋台（模擬店）

準備から出店まで子どもたちが自ら考え企画し、実際に模擬店を出店することにより、働くことの尊さや、お金を得ることの大変さを、実体験を通して学んでもらう場とすることと、子どもたちをまつりのスタッフの一員として参加させることを目的とした。

予 算

実行委員会からそれぞれ 10,000 円の予算を支給。（利益は全額学校に寄付）

参加する子どもたち

学校に協力を依頼し生徒を募集⇒生徒会の生徒が参加。

販売品目

品目や販売価格は生徒・学校が自由に決定し、実行委員会からは一切口を出さない。
（平成 21・22 年度 小学校…フライドポテト・えだまめ、中学校…やきそば）

地域との関わり

小学生は食進さんとセンター職員がアドバイザーとなり、調理の手伝いをおこなった。
中学生は衛生管理、材料の選定・買い出し、調理について等を食進さんがアドバイス。
実際に販売を開始すると、先生・子どもたち・地域の大人が相互に屋台を行き来し、一緒に販売を行い、手伝う姿が見られた。

2 ステージプログラム内容

環境戦士アースマン…怪獣ショー的アトラクション

バルーンアート …NPO法人「遊びの達人」

マジックショー …中学校の元校長先生による魅惑のマジックショー

子どもオンステージ…子どもたちの参加者を募集し、歌、ダンス、祇園太鼓の3組出演
教頭先生のこわい話…小学生に人気の怪談話を教頭先生に協力をお願いし開演。

じゃんけん大会 …地元の商店からいただいた協賛券を景品に実施。

※基本的に子どもたちが興味を持つ内容とし、予算もNPO法人やボランティアにお願いすることで、材料費及び交通費のみの出費となった。

3 地元商店による500円商品協賛

これまで敬老祝賀会や体育祭等の事業を行う場合、まち協が協賛金（一口3,000円から10,000円）を個人や企業から集めていたが、それでは小さな商店には負担が大きかった。

そこで、これまで校区の行事にあまり関わりのなかった個人商店も参加しやすいように、そのお店で販売している500円以内の商品（現金は不可、あくまでも商品）1点を協賛品として提供してもらい、商品券を作成し、じゃんけん大会の景品とした。

※ラーメン1杯券、肉うどん1杯券、ジュース3本券、かき氷1杯券 等

効果…商品交換時に保護者も一緒に来店するため、他の商品も購入する機会が増える。

子どもたちの地元のお店に対する認知度が増す。

個人商店のまちづくり行事に参加する意識を醸成する。 等

4 駐車場の確保

文化祭等、市民センターを会場として比較的大きなイベントを開催する場合、参加者及びスタッフの駐車場の確保が大きな問題であったが、市民センター周辺の企業、お寺、医院の協力により十分な台数を収容できる駐車場を確保した。

また、借用するにあたり、感謝の意をこめて駐車場の草刈りをセンター職員で行うこととしたが、校区の有志の皆さんからお手伝いの申し出があり、結果、一部の人たちだけでなく、校区民全体で開催するという一体感が生まれた。(非常にうれしく、ありがたかった。)

5 その他

入場者数

| 年 度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 入場者数 | 400人 | 500人 | 800人 |

全体予算額

校区まちづくり実践事業として20万円。

6 実行委員会の構成

桜丘校区まちづくり協議会、桜丘市民センター（事務局）、連合婦人会、体育委員会、食生活改善推進員、子供会育成協議会、ボランティアの会、防犯・防災部会、教育部会、桜丘小学校・PTA、富野中学校・PTA 他

平成22年度 活動事例発表概要

| | |
|---|-----------------------------------|
| 小倉南区 | 企救丘市民センター |
| 発表者氏名 (職員・コーディネーター) | 職員 深江真里子 職員 林田直美 |
| 活動報告テーマ (報告事業名) | 子育て仲間の 輪を広げて みんなで楽しく 子育てしましょう！ |
| <p>【活動報告概要】</p> <p>1 事業の目的・ねらい</p> <p>団地・マンションに若い世代が多い企救丘で、安心して子育てが出来る親子の集える居場所作り・子育てを地域全体で支援する体制を構築する。</p> <p>2 事業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援ネットワークの構築・・・支援の検討、子育て講座の充実 2. 常設プレイルームの検討・・・「ぶうぶう島」の開設 3. フリースペース「ぶうぶうくらぶ」の見直し・・・1回／月から毎週 4. 周知方法の見直し・参加親子のデータベース化・・・HP、一斉メール <p>3 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援ネットワーク会議での検討を通じて、①H22.5「ぶうぶう島」開設、②H22.11「ぶうぶうくらぶ」の見直しと支援体制を決めた。 2. 読み聞かせボランティア・子育てサポーター・主任児童委員が参加し、まちづくり協議会・市民センターとの協力体制ができつつある。 3. ホームページなど周知方法の改善や一斉メールでの案内等で始めて利用する親子も増え、繰り返し参加する親子が増えてきた。 <p>4 課題</p> <p>いろいろ改善を始めて数ヶ月のためこれから本番という感じである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 町内会未加入の若い世代が多いため周知の徹底への努力 ② 保護者同士が主体的に連絡出来る<育児サークル>へ！ ③ 専門家・地域住民（託児ボランティアなど）との関係 <hr/> <p>(まちづくり協議会 及び 市の「子育てに優しいまちづくり推進事業」)</p> | |

平成22年度 活動事例発表概要

| | |
|--|-----------|
| 若 松 区 | 修多羅市民センター |
| 発表者氏名 (職員・コーディネーター) | 職員 下田 妙子 |
| 活動報告テーマ (報告事業名) | そばづくり体験塾? |
| 【活動報告概要】 1 事業の目的・ねらい ・子どもたちに農作業の大変さと収穫の喜びを味わってもらう ・地域コミュニティの活性化 ・地域防犯・美化 2 事業概要 ・地域に点在する空地を使って、そばづくりを土起こしからそばの実の収穫、そば打ちまで体験した。 3 成果 ・地域コミュニティの活性化が図られた。 ・子どもたちに農作業の大変さ、収穫の喜びを経験させることが出来た。 ・地域コミュニティ活性化、地域防犯・美化の為に今後も同様の事業を継続していくこととなった。 4 課題 ・参加者の増加 ・耕作箇所増加 | |

平成22年度 活動事例発表概要

| | |
|---|--|
| <p>八幡西区</p> | <p>則松市民センター</p> |
| <p>発表者氏名 (職員・コーディネーター)</p> | <p>職員 井上房子 職員 伊藤須美子 コーディネーター 藤吉みゆき</p> |
| <p>活動報告テーマ (報告事業名)</p> | <p>ボランティアで元気！！～地域のつながりを大切に～</p> |
| <p>【活動報告概要】</p> <p>1 事業の目的・ねらい</p> <p>本格的な超高齢社会の到来を控え、高齢者の健康づくりを含め生きがいを見出すことが生きる上での力となる時代。また、地域でのふれあい、支えあいが地域づくり・活性化の柱になるため、その公的支援者としての立場から、様々な情報と機会を提供し、一人でも多くの方がボランティア活動に参加していただき、地域の絆・元気づくりにつなげることを目的とする</p> <p>2 事例事業について</p> <p>事業を通して、ボランティア人材の確保・拡大</p> <p>① 夏休み寺子屋教室 宿泊体験を含め4回シリーズで、子ども達と世代間交流を深める</p> <p>② 地域ボランティア講座 「加勢しちやリー」をテーマに、地域の支えあいの大切さを実感し、繋がる</p> <p>③ ワンコインパーティ 1年間活動していただいた方々の顔が見える楽しい交流会で絆づくり</p> <p>3 成果</p> <p>「寺子屋教室」での子ども達とのふれあいが大きな喜びになると共に、ボランティアに一歩踏み出す機会として大きな役割を果たしている。</p> <p>「ボランティア講座」では、センター講座に初めて参加という人も数名来られ、機会を作ることの大切さを実感した。又、年度末の「ワンコインパーティ」は隣人の顔が見え、明日の活力にもなるとのことで、年々参加者が増え地域での仲間づくりの輪がひろがっている。</p> <p>4 課題</p> <p>地域内の潜在的ボランティア希望者をどのように掘り起こすか。現在は、館報やネットによる情報発信や、自治会などを通じた情報収集に頼る部分が多いが、これには限界があり、センター自身人間関係を築いて地道に活動の機会づくりや情報収集をし、口コミにより輪を広げる必要がある。</p> | |